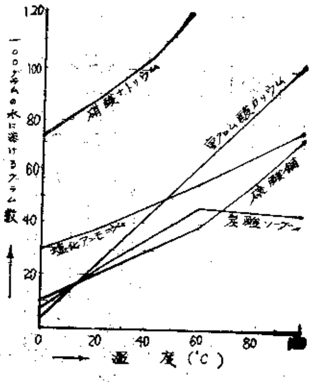
4. 主要薬品の溶解度表

材料名	0°	100°
重クロム酸カリウム	4.6	102
塩化カリウム	28	56
硫酸鉄	15.7	37
炭酸ソーダー	7.1	45
硫酸アルミニウム	70	
過マンガン酸カリウム	2.8	(60°) 25.2
塩化アンモン	30	77.4
硫酸銅	14.8	73

5. 溶解度曲線



考　察

黒檀材色に模擬することを目標に最初各材料を任意の分量に溶解して，その発色度合からBの処方で黒檀材色に近い色調に方法を試み，A・Bの発色具合からCの処方で調整した。

その過程で黒檀材色とほとんど変らない近似色もみられるが，中では材料の飽和溶液・不飽和溶液の状態いものもあり充分な発色をみられないものもある。

薬品着色は酸・アルカリ・塩類等と材質に含有する成分との関係があり，材料・材質により発色は異る。二種以上の組合せで同時に用いる場合もあるが，別々に用いた方が効果的である。

今回は特に作業性を考え刷毛塗着色のみ行つたので，侵漬時間による薬品と材料成分との関係が判明しないが侵漬作業はイスの材質から適正な方法とは考えられない。

最初の方法から最も真材に近い方法を選びこれらの割合比などを変えて試験したが，同一薬品の割合比の変動のみでは充分な効果は得られない。

結　果

黒檀材色に最も近い色調は以上の試験経過から４，５，７，１５，１６，２１，２３番が最も近似色であり，この中でも２１番の阿仙・硫酸鉄，２３番の塩化第二鉄を用いた発色が作業性の点で最適である。

イス材のもつ材質感を生かした方法では２７，２８番の処方が適していると思われる。

白色の材料にはステインカラー（クリヤーラツカーにオイルレッド混溶）の中間着色を施した方法で色調も鮮明であり，充分に利用出来る。

大隅算盤製作所において，現在上記の方法で実施しており，その他木製品の装飾的組合せ部分，イス材製品にも用いられる。

6. 県産材利用による量産クラシック家具の研究

研究員　鮫　島　正登美

目　的

生活の安定と共に，おちつきのある，憩いの場，休息の場としての家具が要求されるようになり，一部ではクラシック家具をと言う声も聞くので，今年は県内に豊富にあるタブ材を利用し，従来の手加工による彫刻刳貫等を機械により，しかも設備の不十分な県下の業者でも量産可能な構造のクラシック的家具のデザイン研究を行つた。

概　要

クラシック家具と言うものを，自分なりに，古い時代に使用されていた，どつしりと落着のある渋い家具と言うような解釈をし，図のように一応のデザインを試みた。

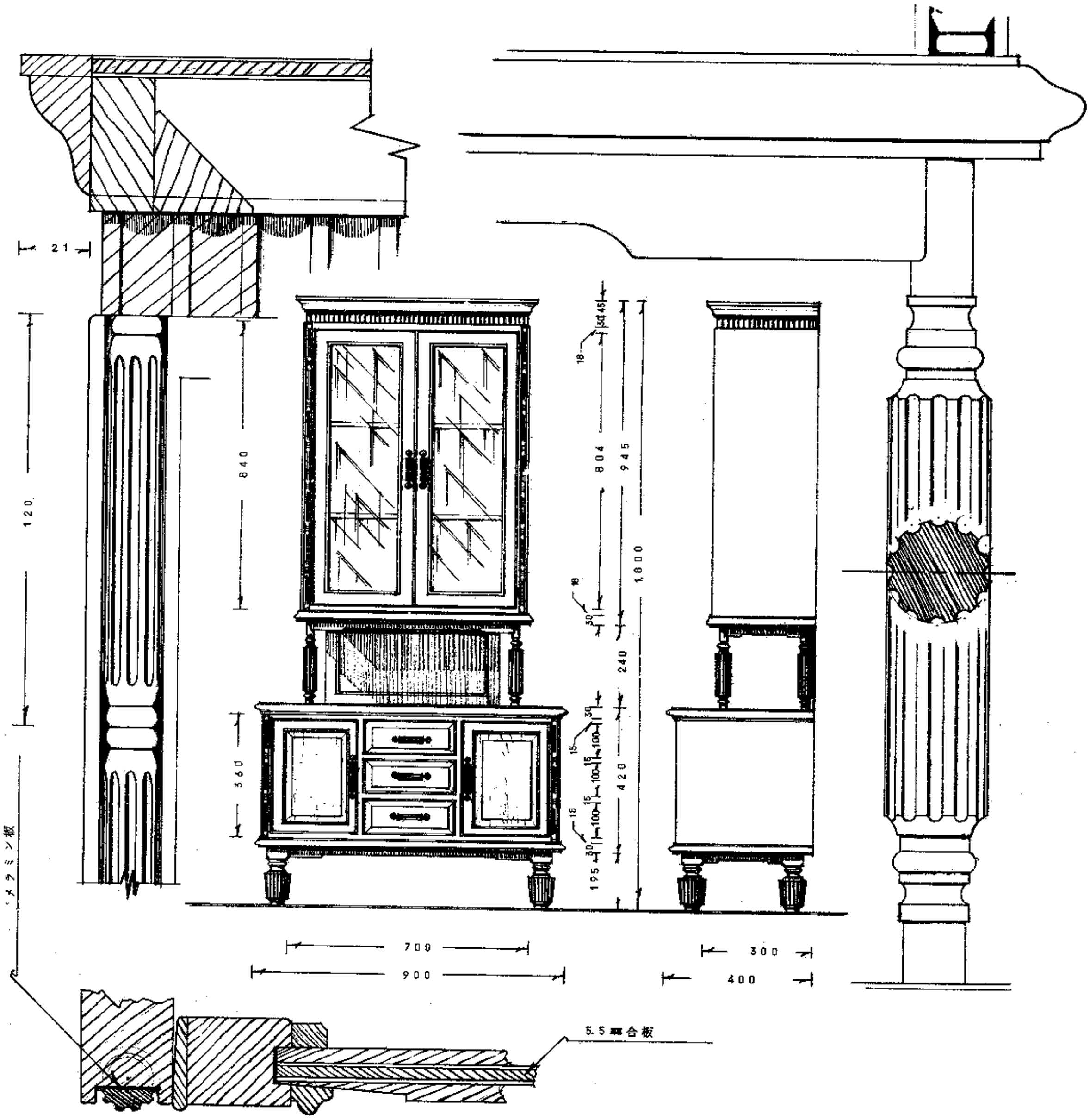
生活上の機能面から言うと，使用感の良し悪し，強度，寸法等はどうか，又装飾，造形の効果はどうか，加工技術的には，部分現寸図にもある通り，このようにすれば機械等を使用し従来手加工によつた彫刻，刳貫等も，機械加工用の治具を研究することにより，手加工よりはるかに能率を上げることが出来る。

ここに発表した飾書棚の他に，◎飾棚，◎洋服タンス，◎食堂セット，◎重タンス，◎茶棚の設計も試みた。

成　果

ここに上げた現寸の構造を利用したクラシック的家具を一部の業者により県外移出されている。

これ等の構造を更に改良研究することによつて，一段と商品価値を高められるものと思われる。


21
120
840
804
945
1,800
240
360
420
195
700
900
300
400
メラミン板
5.5 ㎜合板